

た。

そのころ聖バラタ・ムニによりインドにおける最古の舞踊・演劇に関する教典「ナーティヤ・シャーストラ」が書かれています。舞踊に関わる章では、舞踊で用いられる身体の細部それぞれの動きが分析されて詳細に記されています。その影響は、他のアジア諸国（タイ・ビルマ・インドネシア）に伝わる民族舞踊の原形になっています。

この「ナーティヤ・シャーストラ」に基づいて、南インドでは5歳からグル（舞踊の師匠）に厳しい指導を受けたデーヴァダーシー（神の召使い）と呼ばれる寺院直属の巫女たちにより踊られるようになりました。10世紀頃はヒンドゥー教の儀式舞踊として発達し神前や王侯貴族の宮廷で踊られ、チョーラ王朝（9～13世紀）時代にその全盛期を迎えました。しかしその頃はインドに広まったとはいえ、一部の人々しか見ることが出来なかったようです。

そして19世紀の初め頃、タンジョール・カルテットと呼ばれる4人兄弟によって上演形式が整えられました。踊りの形式は今日でもその基本形式が踏襲されています。技法や演出には宗教舞踊の名残をとどめつつ 舞台芸術として広まることになり一般の人々にも見られるようになりました。また、それまでは踊り子は女性のみでしたが男性も踊られるようになり、今ではグル（踊りの師匠）のほとんどが男性です。

しかし、その後、英国統治時代にはいつて数多くの伝統が破壊され、踊りも

ちろん踊りに欠かせない音楽の演奏者も職を失い伝承が危ぶまれましたが、識者たちの協力で復興を遂げ今に至っています。

中でも、チェンナイの南にある芸術学校「Kalakshetra（カラクシェトラ）」は特に有名です。

「Rukumini Devi（ルクミニ・デヴィ）」によって1936年に設立されました。1930年代に国民の文化遺産の為に寄付金を呼び掛け忘却の闇からバラタナーティヤムの復興に尽くした最も求められたバラタ

ナーティヤムダンサーの一人でした。そして熟練した芸術家、舞踊家たちの演技、巡業、舞踊劇の創作を通してインド各地にインド古典舞踊



バラタナーティヤムを普及させました。

「Kalakshetra（カラクシェトラ）」は素晴らしい芸術の寺院と言う意味でありそれは設立者による個人、国、宗教、そして国際的な発展の力である芸術を知ってもらう為の働きでもあり真の芸術は本質的にすべてにつながることを理想とし強調していました。

古典舞踊バラタナーティヤム、音楽、絵画、工芸を訓練した生徒たちは卒業後彼ら自身の学校を立ち上げたり彼らの故郷やインド各地の大学などで教えます。

ここで学ぶバラタナーティヤムを「カラクシェトラスタイル」と呼んでいます。